2010年度第１種公認審判試験員資格＜新規申請作文＞　大会運営への提案

岐阜県トライアスロン連合
２種審判員　大橋隆義

岐阜県トライアスロン連合主管のカーフマンが１１月２８日に開催された。長良川河川敷特設コースで平成２２年最後の締めくくりレースと云う事で審判長としてレースに臨んだ。大会会長以下、コース設定・作成、事前の打ち合わせを充分実施して当日を迎えた。スタッフは１０月のケンズ大会終了後に召集をかけたがトライアスロンシーズンも終わり、年末と云う事で審判・ボランティアの集まりが悪く、審判１１名ボランティア１０名の計２１名と云う状況だった。当日は２時間３０分前のマーシャル・ボランティアミーティングにもドタキャンが有り再度、配置を変更、全員に大会パンフレット・各クラスごとの審判・ボランティア配置図・タイムスケジュールを配布、全員に無線を渡し全員でコースを歩いて確認をした。９時３０分スタートのキッズ・ジュニアは難なく無事に終えエイジグループのスタートとなった。当日は気温も低く風が強かったのでタイム的に遅れる選手が多かった。

エイジグループのバイクコースとエリートクラスのランコースが同じコースになる為、コースがクリアになった事を確認。しかしエイジクラスのランコース上に１０数名の選手がいたのでエリートのスタートを１３時１０分から１３時３０分に変更、選手に連絡、各スタッフに無線で連絡をしたがコールが全員からは帰ってこなかった。さらに１５分前に無線でエリートのランコース上に移動を支持、これもまた全員からのコールはなかったが了解済と判断して１３時３０分にエリート女子・エリート男子のウエーブで各先導を付けてスタートをさせた。

しかし選手の集団は本来周るべき箇所を周らず直進してしまった。男子もつられて直進してとんでもない状況になってしまった。第１に再度無線でコールを確認しなければならなかった私の判断ミス、第２に先導のコース誘導ミス。第３にスタッフがコース上のコーンを並べ替え遅れのミス。ミスが３つ重なったのだ。すぐに無線で遅れている選手がいるかもしれないので、その選手が正規のコースを走らない様にコーンの並べ替えを中止させ、選手に対して「前の選手についていくように」をスタッフに無線で指示、コールを確認。そして先導がどの場所で曲がったのかを確認した。

河川敷特設コースは１つの大きな周回の中に堤防側と川側を結ぶ横断路がいくつもある。以前からコース図を作成する為にどこを曲がったら何キロコース、あそこを曲がったら何キロコースと、計測をしておいたので正規の距離数に合わせる為には周回をどれだけすれば距離数が合うのかを判断、本部前を通過する選手にコース変更があった事、そして周回数を指示した。レース終了後にエリート選手を対象にコース誘導ミスとコース変更があった事をお詫び申し上げた。とんでもない失態をしてしまった。

岐阜県トライアスロン連合主催及び主管の大会は岐阜県海津市にある国営木曽三川公園の河川敷特設コースを使用してマラソン・デュアスロン・トライアスロンの大会を年間８回開

催している。スタッフはほぼ同じメンバーで慣れているはずなのにミスが起きてしまった。コースを誤って認識してしまったのか。勘違いをしたのか。慣れすぎて間違いが起きてしまったのか、複数のスタッフがいるところ、必ず「意思疎通」の不足が生まれる「自分が思っているように他の人も思っているだろう」と思いこむ人間の通性がはたらいたのだろうか、どちらにしても選手には申し訳ない事をしてしまいました。

コースはジュニア・エイジグループと一緒ではエリートレースの面白みがない。やはり変えられない。今回の失敗後、スタッフミーティングで最近あることに気づいた。いろいろな話をするのだが、その底辺を流れるものはほとんど同じだということだ。質問は表面的にバラエティに富んでおり、答えも千差万別であるように思えるけれど意識しているべきことは同じなのである。結局は「大会とは何の為にあるのか？」「私たちは何のためにスタッフをしているのか？」について繰り返し聞かれているにすぎないのだ。

だから、表向きは非常に高度で専門性を要する質問であったとしても、まず基本的なことに対しての答えを明確にもっていない限り、どんなに頑張ってもロクな答えは出てこないわけだ。だから積極的に講習会に参加し勉強していかなければならないし、他大会にも審判として出向いていって、これも勉強をしていかなければならない。そんな大会を無事に始めて無事に終わるにはどうするか。事前の打ち合わせも大事だが、当日に審判及びボランティアにミスが生じては如何しようもない。

審判とボランティアでは全く同じスパンで物を考える事ができないし、行動を組み立てる事ができない。審判・ボランティアのスタッフ同士が同じスパンでどうとらえるかが非常に大切なのだ。それだけ審判長の果たす責任が大きいのだ。私の勤める会社は化学会社でミスは許されない。ミスが起きないようにチェックシートをもとに作業を実施している。そんなチェックシートをトラ

イアスロン・デュアスロン・マラソン・駅伝のレースに当てはめて使用していたがミスが起きてしまった。そこで新たにコメント欄を設けて新たにチェックシートを作成しなおした。

表の欄に各アイテムを記入し、それぞれのアイテムにチェックを入れてコメントを書いて今後の大会に望むことにした。高いお金を払って出場する選手たちには競技に集中してもらうことが一番「おはようございます。」から「お疲れ様でした。」まで大会関係者が選手に温かい言葉をかけることで「岐阜にきて良かった」と感じてもらえるはず。大会の印象がそのまま岐阜全体のイメージにつながる。大会の主役は選手、われわれは脇役として大会を支えていかなければならない。

岐阜県トライアスロン連合の責任は大会での選手の期待に応え、責任を果たさなければならないし、今回の出来事は過去から積み重なった従来の意識が抜け切れず大会の変化に対応できなかった事を反省し、安全とルール遵守は言うまでもなくその重要さの認識がまだ不十分で細心の注意を払っていかなければならない。われわれは役割期待と行動期待を同時に満たすことが求められている。役割期待とは社会貢献責任、行動期待とは倫理的責任である。これらの責任を

満たすためには防止機能としてガイドライン、マニュアルの整備や教育研修を通じ望ましい価値観に従った行動への動機を与えるとともに、間違った行為の発生を防いでいく。

対処・改善機能は間違った行為が発見されたときに適切な対応と再発防止の改善策が講じられるようにする。

発見機能　取り返しがつかなくなる前に間違った行為を発見していく。自己診断５か条を設定

１）自分自身の心にやましい気持ちはないか
２）この行動は公平・公正・誠実であるか
３）私の行動はスタッフ・選手に一点の曇りもなく説明できるか
４）後で絶対に後悔しないか
５）この行動が公になったとき、世間の批判を受けるようなことはないか

を自身にいいきかせ活動していく。

トライアスロンに関係していて、常々「発信」が重要であるかを痛感している。広く世間に対して、トライアスロン関係外ではあるが、いろいろな形で、様々のことを常に発信し続けることは本当に大切だ。お願い、激励、お礼、ちょっとしたこと。「岐阜県トライアスロン連合はこんなふうに頑張っています」ということを鮮やか　に、そして明るく伝えていかなければならない。一方で何かを伝えようとすると、そこに誤解が生まれる可能性があるのも事実である。発信するメッセージをより新鮮にしようとすればするほど、その反対側にあるものが否定されたかのように伝わってしまう可能性が高くなる。誤解を恐れ発信を控えるなどという手には決して出たくない。ありそうな誤解には十分な注意を払っていく。

今回の失敗は「災い転じて福となす」をもって大会運営に臨み、今後のトライアスロン競技の普及を図っていく。２０１１年度の大会には新たにミドルトライアスロンを実施。２０１２年度には岐阜国体が待っている。　以上